WEB版
菊陽町図書館
少女雑誌の部屋だより

# わすれなぐさ

VOL.30／2022.9

## 少女雑誌の部屋から

今回は都会的でクールな画風で人気を博した画家・蕗谷虹児を特集いたします。
もしかしたら、虹児の名をご存知ない方もいらっしゃるかもしれませんが、『花嫁人形』の唄は一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか。
実は日本のみならず、フランスでも評価され、才能を発揮した虹児。抒情画だけでなく、それぞれの雑誌の読者層にあわせて自在に画風を描き分けました。その才能はどのように開花したのでしょう。

## 蕗谷虹児

*Koji Fukiya*

1898-1979

新潟県生まれ。本名は一男。
大正 9（1920）年、竹久夢二らの紹介により「蕗谷紅児」の筆名で『少女画報』に挿絵を描くようになる。都会的で洗練された画風で人気を博し、吉屋信子の連載小説の挿絵を担当して売れっ子挿絵画家となった。大正 10（1921）年、「蕗谷虹児」に改名。大正 13（1924）年、『令女界』に発表した詩画「花嫁人形」は、後に杉山長谷夫の作曲で童謡になり、虹児の代表作となった。大正 14（1925）年、フランスに渡り、数々のサロンに入選。一流画廊での個展も成功させる。昭和 4（1929）年に帰国後は、『令女界』などで再び挿絵を描いて活躍。戦後は絵本なども手掛けた。

### 夢二との出会い

大正 9 年、尾竹竹坡門下の兄弟子だった戸田海笛の紹介により、当時本郷のホテルに滞在していた竹久夢二のもとを訪ね、画帖を見せます。
そして、夢二から『少女画報』の主筆・水谷まさるを紹介してもらいました。その後、「蕗谷紅児」の筆名で雑誌に挿絵を描き始め、画家としての仕事は順調に広がっていきました。

### パリでの生活

大正 14 年、本格的に絵を学ぶためにフランスへと渡った虹児。パリでは戸田海笛や東郷青児らに出迎えられました。
エコール・ド・パリの画家としてサロンで入選を重ね、一流画廊での個展も成功させました。当時パリに在住していた画家たちとも交流があり、次男誕生の際には藤田嗣治が名前をつけました。

### 花嫁人形

晩年に描いた「花嫁」は虹児の代表作です。故郷の新潟ではふるさと切手のデザインとして用いられ、多くの人々から親しまれています。印刷物でははっきりと再現されていませんが、原画をよく見ると、向かって左側の瞳の下にはうっすらとひとすじの涙が描かれているそうです。花嫁は、若くて亡くなった母親、または初恋の人のイメージを合わせたものではないかと言われています。

### 虹児とアニメーション

昭和 33 年、東映動画（現・東映アニメーション）初のカラーアニメーション映画『夢見童子』が公開されました。虹児は演出・原画・構成を担当。 同映画は初の長編カラーアニメーション映画『白蛇伝』公開に先駆け、テスト的に製作された短編アニメ作品の一つで、東映動画初期のアニメ技術蓄積に寄与しました。『白蛇伝』は、手塚治虫や宮崎駿らにも影響を与えたと言われています。

主な参考文献：『蕗谷虹児』（河出書房新社）、『乙女たちが愛した叙情画家 蕗谷虹児』（新評論）

8/3～10/17　企画展「かくも素晴らしき 目次のデザイン展」開催中！